

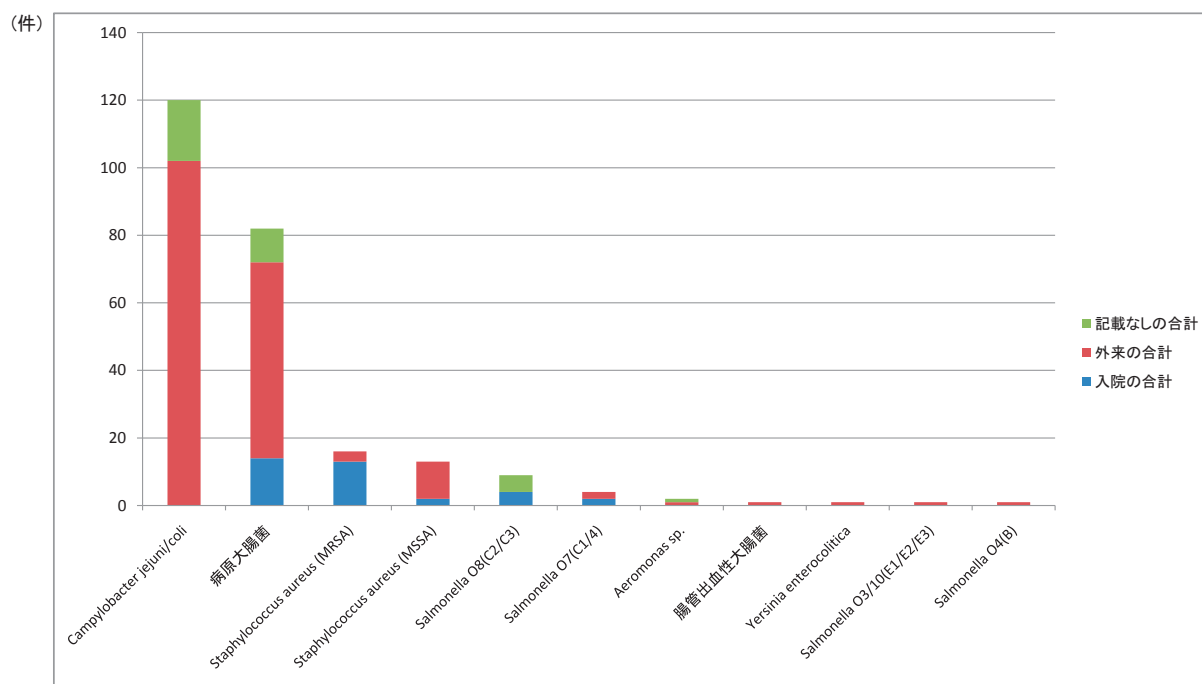
細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

今回は、糞便からの細菌検出状況と、病原性大腸菌型別検出状況を掲載いたします。

【細菌検出状況】

【糞便】細菌検出状況 2017年11月



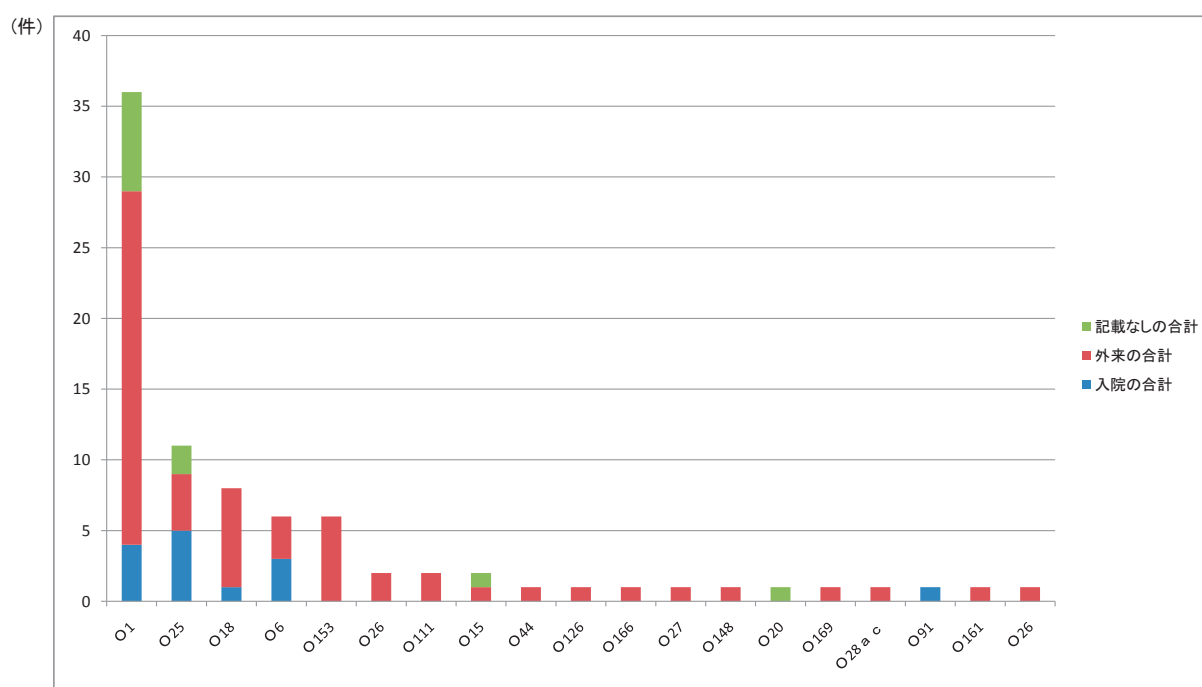
大腸菌 (*Escherichia coli*) はヒトの腸管正常菌叢の一つであり、ほとんど病原性はありませんが、一部に下痢を引き起こすものがあり、「病原性大腸菌 (下痢病原性大腸菌)」と総称されています。病原性大腸菌はO抗原の型により約180種類知られています。検査では免疫血清を用いたO抗原の決定により鑑別を行います。但し、O抗原の型と病原性は必ずしも相関しない場合があり、最終的には病原遺伝子の証明が必要になります。病原性大腸菌には以下の5種類があります。

- ①腸管病原性大腸菌、②腸管組織侵入性大腸菌、③腸管毒素原性大腸菌、④腸管出血性大腸菌、⑤腸管凝集性大腸菌

【病原大腸菌 型別】

病原性大腸菌型別検出状況

【病原大腸菌 型別】細菌検出状況 2017年11月



病原性大腸菌の中でも、特に病原性や感染力が強い腸管出血性大腸菌（EHEC）はベロ毒素産生性大腸菌（VTEC）とも呼ばれ、重篤な症状を引き起こす可能性があります。EHECの血清型は、O157をはじめ、数多くの血清型が報告されていますが、確定診断はベロ毒素の検出をもって判定されます。

最も多く検出されている病原性大腸菌 O1は健常者の多くからも分離され、症状がなければ定住性大腸菌である可能性もあります。

11月は当センターにおいて EHEC は1件（O26）検出されております。EHEC は3類感染症に含まれ、届け出が必要となっております。

当検査センターホームページでは詳細な情報をご覧いただけます。<http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>